

Analysis of Communication Structure

No.

氏名

年

月

日

尊重性

自分とは違う他人の行動に対して、他人の立場を尊重して、その行動を受け入れることができるかどうかを見るもの。尊重性が高い場合、他人の行動や仕事の仕方を見ても、その人にはその人なりのやり方があると、尊重して受け入れることができる。そのため、対人関係は円満になり、心のつながりを深めやすい。尊重性が低い場合、自分の思いが優先して、他人の行動を自分の基準に合わせようとする。そのために、押しつけがましいと思われることが多くなり、対人関係は緊張感の高いものになる。

融和性

自分の生活文化を他人と融合するときストレスを感じるかどうかを見るもの。融和性が高い場合、生活の中に新しいものを取り入れることが好きで、他人の文化と融合することが容易なので、コミュニケーションを深めやすい。融和性が低い場合、自分の生活に他人が近づいたり、深く入ってくることに強いストレスを感じる。そのため、コミュニケーションを深めにくくなる。

開示性

個人の内面を表に出すことにストレスを感じるかどうかを見るもの。開示性が高い場合、個人のプライベートな情報を開示することにストレスがなく、とても開放的な人となる。そのために、コミュニケーションを深めることが容易にできる。開示性が低い場合、プライベートな情報を開示することに強いストレスを感じるため、秘密主義の人という印象になる。そのために、簡単には近づけない、親しくなることが難しいという感じとなり、コミュニケーションを深めにくい。

創造性

自分で考える傾向が強い、他人任せにする傾向が強いを見るもの。創造性が高い場合、自分で考える傾向が強く、何に対しても自分なりの考えが出てくる。そのため、その人の本質と結びついた、しっかりしたコミュニケーションをとることができる。創造性が低い場合、自分で考えることをせず、すべてを他人任せにする傾向がある。そのため、その人の本質が曖昧になり、コミュニケーションの基礎がはっきりしなくなる。

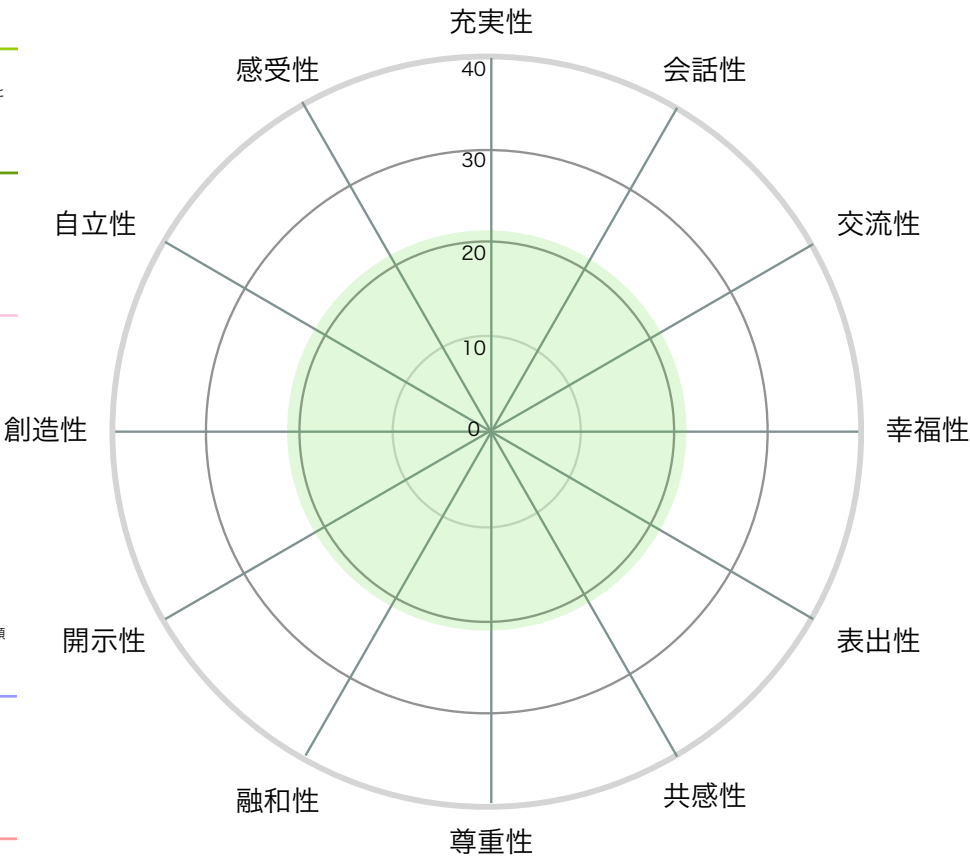
自立性

周囲の評価や感想に縛られない、自由な心を持っているかどうかを見るもの。自立性が高い場合、周囲の評価に左右されることなく、自分の生き方を不安なく貫くことができる。そのため、対人関係では、冷たい人、他人のことを考えない人という印象になる。自立性が低い場合、周囲の評価を気にする気持ちが強く、他人に合わせようとすることが多くなる。そのために、自分の気持ちを抑えすぎて苦しくなったり、依存的な人間関係を築くようになる。

感受性

喜びや悲しみを受けとめることが十分にできるかどうかを見るもの。感受性が高い場合、いろいろなきことに感動する心を持っており、話題が豊富。コミュニケーションも豊かになる。感受性が低い場合、好き嫌いがはっきりしているの、話題が偏り、コミュニケーションの幅が狭くなる。

自分の予想数値を書いてグラフ化してみよう！



充実性

現在の自分に充実感を持っているかどうかを見るもの。充実性が高い場合、現在の自分に自信があり、何に対しても積極的に関わり、前に進めていこうという意欲に溢れている。コミュニケーションが豊になる。充実性が低い場合、自分に自信がなく、何に対しても消極的。

会話性

普段の何気ない会話をする意欲がどれほどあるかを見るもの。会話性が高い場合、何気ない会話をするのを楽しいと感じるため、会話の量が多くなり、コミュニケーションも豊富になる。会話性が低い場合、何気ない会話を苦手と感じていて、必要なこと以外は話さない。そのために、会話の量が少なくなる。

交流性

他人と一緒にいることを、楽しいと感じるか、苦痛と感じるかを見るもの。交流性が高い場合、大勢でいることを楽しいと感じ、多くの人と一緒にいたいと思う。そのために、コミュニケーションがとても活発なものになる。交流性が低い場合、他人と一緒にいることに苦痛を感じるので、多くの人と一緒にいるだけで疲れてしまう。そのために、一人でいることを好むようになり、コミュニケーションが極端に少なくなる。

幸福性

基本的信頼感が豊かであるかどうかを見るもの。幸福性が高い場合、自分に対しても、世界全体に対しても、肯定的に捉える気持ちが強く、すべてを前向きに受けとめて、前進させていこうとする意欲に溢れている。そのため、対人関係は円満になり、コミュニケーションも活発になる。幸福性が低い場合、否定的な見方が多くなり、悲観的に考えたり、批判的に見るが多くなる。そのため、人間関係は緊張感の高いものになり、コミュニケーションも素直でないものになる。

表出性

感情表現が豊かであるかどうかを見るもの。表出性が高い場合、感情表現が豊富で、とても親しみやすい印象なので、コミュニケーションをとりやすい。表出性が低い場合、理性的な会話が多くなるために、親しみやすさは少なくなるが、しっかりした議論ができるようになる。

共感性

他人の感情を十分に受けとめることができるかどうかを見るもの。共感性が高い場合、他人の感情を素直に受けとめることができるので、心のつながりを深めることが容易にできる。共感性が低い場合、他人の感情を受けとめることができないために、心のつながりをつくりにくく、独りよがりという印象を持たれることが多くなる。